講座・イベントのごあんない

イベント	日時		
■藤沢市市民活動支援施設の制限付き施設再開	3月8日(月)	～	3月21日(日)
■ロッカー利用団体募集（二次募集）	3月8日(月)	～	3月31日(水)
■フジサワアイデアソン	3月18日(木)		14:30～16:30
■ワカモノ×NPO　成果発表会	3月20日(土)		
■六会を知る！オンラインまち歩き	3月28日(土)		10:00～11:30

NEW! 支援施設からのお知らせ

■制限付きの施設再開について

緊急事態宣言の延長を受け、藤沢市市民活動推進センターおよび市民活動プラザむつあいでは、ご利用内容を制限しての開館とさせていただきます。

【対象期間】2021 年 3 月 8 日（月）～ 3 月 21 日（日）

【制限内容】

・市民活動推進センター

①開館時間　9:00 ～ 20:00

②フリースペース・作業コーナー　1 団体 4 名まで入館可

③会議室　3 月 21 日（日）まで使用不可

・市民活動プラザむつあい

①開館時間　9:00 ～ 19:00　※通常通り

②フリースペース・作業コーナー　1 団体 4 名まで入館可

※期間は、状況により変更する可能性があります。

■ロッカー利用団体募集（二次募集）

2021 年 4 月 1 日から館内設置のロッカーを利用する団体を募集します。ご利用は月単位、最長 1 年です。

締切：2021 年 3 月 31 日（水）

対象：市民活動支援施設登録団体

募集内容：推進センターロッカー（小）

プラザむつあいロッカー

料金：一か月 200 円（1 年で 2,400 円）

問合・申込：市民活動推進センター

市民活動プラザむつあい

■フジサワアイデアソン～”ポストコロナ”の子どもを取り巻く環境を考える～（オンライン）

参加者でアイディアを出し合う中でお互いの相互理解を図り、これからの子ども達を取り巻く環境を共につくり上げていくつながりを生み出していきます

日時：2021 年 3 月 18 日（木）　14：30 ～ 16:30

対象：子育て世代や子どもに関する課題に取り組む NPO や企業、教育機関の方

料金：無料　／　定員：30 名

問合・申込：市民活動推進センター

■「地域でつながるワカモノ ×NPO インターンシッププログラム」成果発表会（オンライン）

高校生～大学生のワカモノが NPO・市民活動団体でインターン生として活動した成果を発表します。詳細は、決まり次第 WEB に記事を掲載します。

日付：2021 年 3 月 20 日（土）

料金：無料

対象：ワカモノを応援したい方などどなたでも

問合・申込：市民活動推進センター

■六会を知る！オンラインまち歩き～藤沢の原風景が残る西俣野からネット中継し、歴史を学ぶ～（オンライン）

西俣野地区とインターネットで繋ぎ、中継をしながら寺社や旧跡、歴史などを学ぶ講座です。

日時：2021 年 3 月 28 日（日）10：00 ～ 11：30

料金：無料

問合・申込：市民活動プラザむつあい

発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00 ～ 22:00　火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢 1031 GRAFARE FUJISAWA 2F

※ビル名が変更になりました

TEL：0466-54-4510 FAX：0466-54-4516

E メール： f-npoc@shonanfujisawa.com

分館： 市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00 ～ 19:00　月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野 4-8-1 六会市民センター 2 階

TEL＆FAX：0466-81-0222

E メール： f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL ： http://plaza6i.f-npon.jp/

編集：認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設　指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております♪
サポーターも随時募集中です！

F·wave

2021 3

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ･ウェーブ」

特集：コロナ禍での助成金のイチ役割

制限付き施設再開のお知らせ

緊急事態宣言の延長に伴い、下記の期間について、制限を設けながらの開館とさせていただきます。ご不便をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【期間】2021 年 3 月 8 日（月）～ 3 月 21 日（日）

※制限内容の詳細は 4 ページ目にございます

緊急事態宣言が再発令されてから 2 ヶ月が経ちました。今回も多くの団体が日頃の活動や予定していたイベントを中止にされたと思います。その判断を即座にできたところもあれば、迷い、苦渋の決断をされたところもあったのではないでしょうか。今回ご紹介するのは、藤沢市の助成金を活用してイベントを実施した団体の事例です。今年度から始まった「ミライカナエル活動サポート事業」で採択され、2 月 23 日（火）に「Fujisawa こどもミライカナエル Project~ 歌とダンスでセーリングを応援しよう ~」を主催された SASP 代表の小宮明日翔さんにお話をうかがいました。

SASP（サスプ）は、子役として活躍した経験を持つ学生たちによって結成された団体です。幼少の頃から芸能の世界に携わってきた経験を活かして子ども達に歌やダンスの楽しさを伝え、また自らのパフォーマンスを披露していくことで、文化芸術に関する理解を深めてもらいたいと思い、活動を始めたそうです。

（つづく）

特集：コロナ禍での助成金のイチ役割

今回の企画は、子どもたちに歌やダンスのワークショップを行い、その成果としてコンサートで披露するというものでした。コロナの影響から予定より少人数で実施し、コンサートもオンラインでの配信が中心となりましたが、子どもたちの本当に楽しそうな様子と、SASP メンバーのパフォーマンスの高さが印象的でした。ワークショップで教えてくれたお兄さんお姉さんたちが本気のパフォーマンスを披露する。それがまた子どもたちにとっての刺激になるのは、今も各々がトップの世界で活躍することを目指している SASP だからこそできる強みなのではないかと感じました。

実は今回 SASP が助成金に挑戦したのは、団体としての主催実績が無かったことが大きな理由でした。子どもたちに楽しさを伝えたいという想いは間違いなくあったものの、普段指導者であるわけでもない自分たちがワークショップを行うことに、どこか自信が無く、なかなか一歩を踏み出せなかったそうです。しかし、母親や想いをよく知る大人に背中を押されて応募を決意。ユース枠という形で採択され、やらなければならない状況になりました。早速メンバー同士で話し合い、企画を支援施設スタッフに相談。広報についても市の助成金採択事業として広報ふじさわに載せてもらうなど、さまざまな人の力を借りることで実現にこぎつけました。

このことは小宮さんにとっても大きな経験になったと言います。ワークショップ中の子どもたちは確かに楽しそうで、その姿を見るだけでこの活動の価値を実感できたそう。またコンサート後に 1 人の子どもから「将来の夢ができた。女優さんになりたい。」と言われ「歌や踊りを通して子どもたちに夢や希望を与えられたことは本当に自信になった」「熱が冷めないうちに次の計画を立てていきたい」と話していました。

現在のこのコロナ禍、やはり実施することには大きな不安もあったそうです。しかし、採択事業の相談会の中で「進めて大丈夫」と言ってもらえたことや、その後も担当者から中止を勧められなかったことが、最終的な実施の判断に至ったとのことでした。終了後、子どもたちの親御さんからは「この状況でやってくださり、ありがとうございました」というメッセージを多数いただき、オンラインでは代用できない大切なことがあると再確認できた機会になったそうです。

助成金というのは資金面のサポートだけではありません。提供元が持つ資源を活用できることもあれば、今回の事例のように活動の背中を押してくれる場面もあります。「with コロナ」時代の市民活動は、今まで以上に迷うことが多く出てくるかもしれません。自分たちの活動に自信を持つために助成金を活用することを、検討してみてはいかがでしょうか。

（記事作成　芳賀・林）

団体紹介

SASP（Sustainable Arts & Sports Project）

設立：2018年12月

問合せ：imymemine4620@me.com

HP：http://sasp2018.net/

メンバー全員が元舞台子役として幼少の頃から芸能の世界に携わってきた経験をもとに、パフォーマンス披露やワークショップ等を通して、文化芸術に関する理解を深めてもらい、アーティストの地位向上を目指す学生を中心とした団体です。

2020年は、オリンピック競技であるセーリングをイメージした応援ソングを作り、イベントで披露しましました。2021年からはワークショップを開催するなど、子供たちに向けた取り組みをより一層強く進めていきます。ぜひ活動の様子を各種SNSでご覧ください。

NPO TIPS

どうしてボランティア　case2

ボランティアをする人の「心持ち」をおうかがいする本コーナー。第 2 回は、2013 年から当施設のサポーター、2020 年からは藤沢市の市民活動推進委員をしている鎌倉さんにお話をうかがいました。

CASE 2：「人生に彩（いろどり）を」
鎌倉 晴久さん (70 歳代)

一昨年サラリーマン生活にサヨナラして、生活様式を変えようとしました。まず時間を気にしない自由な生活、次に「断捨離」で過去に決別、そして趣味や旅行を楽しむ。

でも、社会貢献については、45 年間都心に通い続け、多少の寄付や活動はしていたものの、地元にはほとんど貢献できていなかったのです。アメリカ駐在時に意識したこととして、欧米人はキリスト教の教えもあり、寄付や社会活動を当然のようにしています。アジアでも大乗仏教では「利他行」を実践することを強調しています。

離職後、半年余りでやりたいことはほぼできました。そこで、私の人生のモットーのひとつ「利他、人のために何かを」しようと考えました。自分に与えられた時間を自分のためだけに使うより、少しでも人のためになることにも使った方が心豊かになれるのではないかと思うようになりました。

推進センターには定年を迎える前に相談に行き、サポーターとして登録していました。推進センターのチラシや広報ふじさわなどに目を通し、自分にあったボランティア活動には積極的に参加するようにしました。また、町内会長や地域のリーダーにアドバイスをもらい、公園や公民館の清掃、一人暮らしのご老人の話し相手、推進センターのお手伝いや地域ささえあいセンター行事への参加等をするようになりました。

まだ私に残された時間や体力からすると不十分。誰もが手を付けない些細な不便、一人暮らしのお年寄りや在日外国人の生活上の不便、将来日本を支える子供たちの不安、これらを少しでも軽減できる活動を手探りでさがしています。

定年を迎えたり、子育てを終えて時間ができた方には、何かを始めるとご自身も嬉しいということを伝えたいです。ボランティアでも人との関わりが増え、人生に彩（いろどり）を添えられます。そういう楽しみを味わい、他の人とその時間を共有できるようになってもらえればと思っています。

なぜなにNPO vol.140

震災から 10 年　市民活動の役割

何が起こっているんだ。10年前の3月11日午後2時にビルが大きく揺れた。立つことができず、利用者の皆様に声をかけながら、這いつくばって、テレビのスイッチを入れた。

あれから10年がたち、あれほど頻繁に通っていた東北3県に昨年は一度も足を運ぶ機会はなかった。2021年に入り、当時一緒に活動をしていた宮城県の友人からセミナーの誘いを受け、オンラインでヒアリングに参加した。その時ヒアリングを担当したスタッフは、10年前に「15の力」という被災3県のNPOを対象に開催したセミナーの参加者でした。活動を続けていてくれたことに感動し、思わず「ありがとう」と言ってしまった。

発災後に岩手県に入り、大船渡の町を目の前にしたとき、あまりの惨劇に息をするのもつらいくらい悲しくなった。私は何をしに来たのか、ここで何ができるのか。しばらく動くことができなかったことを覚えている。その後、被災3県NPO運営支援「15の力」プロジェクトに協力することになり、最初に見た大船渡のある岩手県を担当し、3年で200回以上通った。その後も関係を持ちつつ年に数回お邪魔していた。私にできたことは、藤沢にいる時と同じで、NPOで自己表現をしようとしている人達の応援にかこつけたおせっかいだったと思う。10年後の今、その中のメンバーが活動の主役になっている場面に遭遇することが多くなり、「ありがとう」と心の中でお礼を言っている。

この原稿を書いている2021年3月5日に、非常事態宣言が21日まで延長された。昨年もちょうどこのころから、行動の規制が始まった。施設の休館を始め、できることが少なくなることが想定されていたが、それでもできることをメンバー全員で考え、一緒にできることと自分でできること、やりたいことをそれぞれが、文字化する作業をした。

大きな災害が起こった時、自分や自分たちで何ができるかを知っていることが、その後の生活に大きく影響する。最近幾度となく繰り返される自然災害の復興策の中でも大変重要とされてきている。毎年3月11日が近づくにつれ、個人で、組織で、そのとき何ができたのか、今は何ができるのか、考えることにしている。コロナ禍でも歩みを止めていない市民活動団体や、あえて、活動を緩やかにして組織のことを考える時間をとっている市民活動団体など、今をしっかり見据え、対応することが、未来を創る市民活動の役割なのではないかと思っている。（て）